

古代から続く祈りの道

- 大和の石仏巡行 -

第13回 平群町・千光寺の石仏と 清滝の磨崖仏



元 久留米工業高等専門学校教授
伊藤 義文

1. 地理

奈良県・平群町の北西部に位置し、生駒山麓の豊かな森と、竜田川の支流である樺原川いちはらが流れる鳴川溪谷に囲まれた山里に、鳴川山もときんじょう・元山上千光寺があります(図1)。ここは役行者えんのぎょうじやゆかりのお寺で、古来山岳修行の場でした。役行者が大峯山を開く前にここで修行したことから「元山上」と呼ばれています。また役行者の母が住んでいたことから、

今も女性の修行者を受け入れており「女人山上」とも呼ばれています。

近鉄生駒線の元山上口駅から、徒歩約1時間、修験道に登っていくと、途中に清滝の行場が見えます。ここでは荒行の1つである滝行を行っています。さらに急勾配の道に登ると、千光寺に到着します。総門をくぐると護摩壇に沢山の石仏が祀られ、その前が火渡り道場になっています。ここでは

毎年8月に滝祭り火渡り修行(図2)が開催されており、奈良県の無形民俗文化財に指定されています。



図1 千光寺の総門と役行者像群

2. 歴史

660年頃に役行者が十一面観音を刻み、庵を結んだのが始まりと言われています。その後、683年に天武天皇がこの地に伽藍を建立し千光寺となりました。境内には本堂や観音堂、宝塔、十三重塔などの堂塔が建ち並び、観音堂、行者堂を見守るように多くの役行者像が並んで立っています。

鳴川峠に源を發した樺原川が流れる鳴川溪谷は、集落のメインストリートから、少し谷を下ったところにあります。溪谷の両岸には、大きな岩が切り立っており、鎌倉時代から江戸時代にかけて彫られた「清滝石仏群」と総称される磨崖仏が彫られています。



図2 滝祭り火渡り修行と滝行(画像提供:千光寺)



図3 千光寺の火渡り道場と護摩壇



図4 子宝授与のお地藏さん



図5 不動明王と三十六童子

3. 石仏

3.1 千光寺境内の石仏

①火渡り道場と護摩壇 (図3)

火渡りとは、修験道の荒行の1つです。行者と信者が素足で火の上を渡り、お不動様のご利益をいただく修行です。この修行を見渡すように、護摩壇には沢山の石仏が祀られています。

②子宝授与のお地藏さん (図4)

表門を抜けた先には、子宝授与のお地藏さんがいます。右隣の弁天様と思われる女性の石仏と、左は大黒様なのかとてつもない巨根の持ち主のお地藏さんがいます。

③不動明王と三十六童子 (図5)

不動の滝が母公堂の前にあり、不動明王とその眷属の三十六童子が祀られています。静寂な境内において、唯一滝音を響かせています。

④胃癩大師 (図6右)

敷石の下には四国八十八ヶ所霊場のお砂が埋められてあるそうで、草鞋に履き替えて胃癩講祈禱会(胃癩のまじない)を受けるとご利益があると言われています。

⑤鳴川弁財天女 (図6左)

池の中に、鳴川弁財天女の石像が祀られています。本堂に祀られている弁財天と共に、勧請緒神として信仰されています。

⑥十三重層塔と宝塔 (図7)

十三重塔には、塔身部に金剛界四仏の梵字が刻まれ、宝塔と共に鎌倉時代のものと見られます。宝塔は一見五輪塔

を思わせますが、これは宝塔であり、古い五輪塔の素形を考える大切な資料となっています。

3.2 清滝の磨崖石仏群

鳴川溪谷の両岸には、大きな岩が切り立っており、鎌倉時代から江戸時代にかけて彫られた「清滝石仏群」と総称される磨崖仏が彫られています。この石仏群は、聖なる場所を表すとともに、俗と聖を分け、魔が侵入するのを防ぐ役割を担っています。また、鳴川集落への流行病や魔の侵入を防ぐために、両岸には勧請縄が渡され、毎年大晦日に掛け替えが行われています。



図6 鳴川弁財天女と胃癩大師



図7 十三重層塔と宝塔



図8 八尺地藏磨崖仏 (拓本を貼付、拓本画像提供：平群町教育委員会)

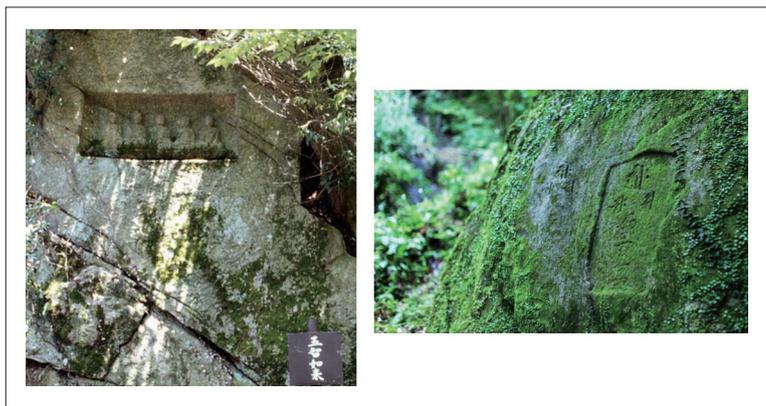


図9 五尊仏と三界萬霊供養磨崖碑 (五尊仏画像提供：平群町教育委員会)



図10 貝吹地藏

①八尺地藏磨崖仏 (図8)

行場の中心となる線刻地藏立像は、清滝の崖面に刻まれています。八尺地藏と呼ばれていますが、実際はさらに大きく、総高3.37m、仏身2.9m、頭光月輪径1.0mもあります。蓮華座上に立ち、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ姿で、頭部は薄肉彫りで、他を線刻で表現しています。銘はありませんが、その意匠から鎌倉時代中期の優品です。実像は、苔の付着や経年劣化が進んでおり、地藏様の姿がはっきりしませんので、参考のために崖面の写真の上に拓本を貼り付けています。

②五尊仏と三界萬霊供養磨崖碑 (図9)

八尺地藏磨崖仏の対岸には0.62 × 1.32mの横長の彫り込み内に釈迦・薬師・地藏・弥勒・阿弥陀の五尊仏（かつては五智如来と呼ばれていた）の座像（仏身35cm）が並んでいます。五尊仏と向き合うように、上部に阿弥陀三尊の種字を刻んだ三界萬霊供養磨崖碑が並んで刻まれています。

③貝吹地藏 (図10)

ここから奥に進むと、左手の崖面上下に方形の彫り込みがうがたれており、貝吹地藏が2体陽刻されています。上段には97cm角の彫り込みに仏身82cmの地藏立像が、下段には93 × 67cmの彫り込みに地藏立像が刻まれています。像容から室町時代後期～江戸時代初期の作とされています。



図11 法螺吹地藏 (左下) とはらみ地藏 (右上)

④法螺吹地藏とはらみ地藏 (図11)

北側の岩壁には83 × 41cmの船型の彫り込み内に仏身68cmの法螺吹地藏と、57 × 41cmの船型の彫り込み内に仏身41cmのはらみ地藏が並ぶように刻まれています。いずれも近世になってからの尊像です。

3.3 揺るぎ地藏と十三仏板碑 (図12)

千光寺の山門から下った分かれ道の地藏堂に祀られている、像行約2mの地藏立像です。頭には大きな笠石、左側面には弘安4年(1281年)の銘があり、2度目の元寇の際、危難を避けるように建立されたと考えられています。その



図 12 揺るぎ地蔵と十三仏板碑

後、拜めば病の根が揺るぎ治ると信じられていたことから「揺るぎ地蔵」と呼ばれています。傍らには13体の仏像を刻んだ室町時代の十三仏板碑が建っています。

4. まとめ

修験道の開祖・役行者に縁のある千光寺は鳴川山・元山上と呼ばれ、現在も修験道の霊場となっています。生駒山地から流れる清滝に身を委ね、滝行や食作法、護摩修行を体験できます。女性の修行者も来られています。毎年恒例の滝祭り火渡り修行では、清滝に打たれ、その後護摩焚き、

火渡りの荒行が行われており修行者のみならず、一般の方も参加できます。

境内には護摩壇や不動の滝などに沢山の石仏が並び、鎌倉時代の十三重層塔や宝塔などもあり、これらの堂塔を見守るように信者から寄進された沢山の役行者像が並んでいます。また、清滝の崖面各所には八尺地蔵磨崖仏、貝吹地蔵などの清滝石仏群が彫られ、これらは一括して平群町の指定文化財になっています。

今回の石仏の動画はYouTubeにアップロードしていますので、ぜひ次のキーワード検索で美しい動画をご覧ください。できれば幸いです。

・検索：平群町・千光寺と清滝石仏群 – YouTube

URL： https://www.youtube.com/watch?v=w8D_vKf4IFE

著者略歴



1947年生まれ。72年、京都大学大学院卒業。以降、民間企業にて真空蒸着技術のフィルム応用や各種包装材料の開発に携わる。2004年、久留米工業高等専門学校教授。15年、退職。ライフワークとして石仏調査を行い、その成果をYouTube (<https://www.youtube.com/channel/UCvJiTXSHW2MoqwdpszXcOQ>) に公表している。
✉ itou910@zeus.eonet.ne.jp